



病害虫発生予察注意報 第4号

曇雨天が続いたため、穂いもちの多発生が懸念されます。

穂いもちの防除を徹底しましょう。

[発表の内容]

作物名 : 水稻
病害虫名 : いもち病 (穂いもち)
発生量 : 多い
発生地域 : 県下全域

[発表の根拠]

- ① 7月下旬現在、病害虫防除所巡回調査圃場の葉いもちの発病度(1) (本年値3.8, 平年値2.5)は平年よりやや高く、発生地点率(本年値49%, 平年値39%)は平年並~やや高い。
② 7月下旬現在、県予察圃(水戸市, 無防除)の葉いもちの発病度(本年値23.5, 平年値14.8)は平年より高い。
③ 7月1日~30日の葉いもちの感染好適条件(BLASTAM(2)による)の出現日数は平年より多い(表1)。特に7月中旬~下旬は広範囲で複数回の出現が認められる(表2)ため、穂いもちの伝染源となる上位葉での発病増加が懸念される。
1) 発病度: 株ごとの発病程度をもとに算出した数値, 最小値は0で最大値は100となる。
2) BLASTAM: アメダスデータ4要素(気温, 降水量, 風速, 日照)から, その日が葉いもちの感染に好適であったかを判定するプログラム。葉いもちの発病は, 感染好適条件が出現した日から7~10日後に始まると考えられる。

表1 BLASTAMによる葉いもちの感染好適条件の地域別の平均出現日数(7月1日~30日)

Table with 6 columns (Region: 県北, 県央, 鹿行, 県南, 県西) and 2 rows (本年値, 平年値). Values range from 3.0 to 11.3.

表2 BLASTAMによる葉いもちの感染好適条件等の出現状況(7月14日~30日)

Calendar table showing infection conditions (● for good, ○ for standard) across various locations from 7/14 to 7/30.

●: 感染好適条件出現日
○: 準感染好適条件出現日

[防除対策]

- ① いもち病菌がイネの穂に侵入しやすいのは、出穂直後から出穂後 14 日位までである。この期間に降雨が続く場合は、穂いもちの発生に注意する。
- ② 穂いもちを対象とした液剤による防除適期は、穂ばらみ末期～穂揃期である。葉いもちが多発し、上位葉に病斑が進展している水田では、防除を徹底する。
- ③ 葉いもちが上位葉で多発し、出穂期に降雨が続いて穂いもちの多発が予想される場合には、収穫前日数等に注意し、傾穂期（穂揃期 10 日後ごろ）に追加散布を行う。
- ④ 防除薬剤は表 3 を参考とする。また、殺菌剤を複数回使用する場合、薬剤耐性菌の出現を防ぐため、FRAC コードの異なる薬剤を選択する。

表3 水稻のいもち病防除に本田で使用できる主な薬剤 (令和2年7月14日現在)

薬剤名	使用時期	有効成分の種類	FRACコード
アミスターエイト	収穫14日前まで	アゾキシストロビン	11
トライフロアブル	収穫14日前まで	テブフロキン	U16
ノンプラスフロアブル	収穫7日前まで	トリシクラゾール	16.1
		フェリムズン	U14
ブラシンフロアブル	収穫7日前まで	フェリムズン	U14
		フサライド	16.1

注) 農薬を使用する際は、ラベルに記載されている使用基準、注意事項を必ず確認のうえ使用する。

(注意事項)

BLASTAM は、特定地点の発生を予測するものではなく、広域にいもち病が感染する時期を推定するシステムであり、最寄りのアメダス地点だけでなく、周辺のアメダス地点の出現状況も併せて判断する。また、圃場の条件（風通し、日当たり等）、栽培条件（窒素過多等）、防除体系などは考慮されていないため、最寄りのアメダス地点で感染好適条件が出現していなくても、圃場によっては感染に好適な条件になっていることもある。あくまで広域的な感染好適条件出現の目安とし、圃場毎の条件等にあわせて発生に注意をする。